

校内研究活性化 プロジェクト研究通信



皆様、お元気でいらっしゃいますか。研究委員の皆様におかれましては、各校で校内研究会が活発に実施され、その成果と課題を次の研究会につなげていくために様々な手立てを講じていただいていることと思います。各校をお伺いする度に、先生方が講じた手立てが教職員一人一人の学びにつながっていく様子を拝見し、大変うれしく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、プロ研通信第5号では、第6回研究会での研究委員の皆様の学びについてお伝えします。

第6回研究会 概要

第6回研究会は、10月4日(金)に行いました。この会は、会場校としてX小学校の皆様が校内研究会の様子を公開していただきました。A教諭はこれまで、X小学校として目指す校内研究のあり方を見据えて、校内の先生方と協議し、実践を繰り返してこられました。その変遷を踏まえて取組を御紹介します。

第6回研究会の流れ

- X小学校にて
- 授業参観に向けて「探究的な学びシート」の活用
- 研究授業の参観
- 授業研究会の参観
- 振り返り



研究協議の様子

授業参観に向けて

探究的な学びシート

第6回研究会では、研究委員の皆様がX小学校の教職員の学びを見取っていただくことで、教職員一人一人の探究的な学びを支える校内研究のあり方について考えていただきました。当日は、研究会を研究委員一人一人の探究的な学びの場とするために、これまでの研究会で使用していた振り返りシートを改良し、「探究的な学びシート」(図1)を作成して、研究委員の皆様にご覧いただきました。

研究会のはじめに研究委員の皆様には、自校の成果と課題を踏まえて、第6回研究会を通して学びたいと考えておられることを記入していただきました(図1中の赤枠)。これは探究的な学びの「問いを立てる(立問)」のプロセスにあたります。次のページに研究委員の皆様にご覧いただいた「学びたいこと」を御紹介します。

探究的な学びシート(研究委員記録)					
所属名	名前				
立問 自校の校内研究活性化に向けたこれまでの成果と課題を踏まえて、今日の研究会でのあなたが学びたいと考えていることを記述してください。 学びたいこと					
実践 「授業参観シート」と「校内研究参観シート」を活用して、紙王小学校の校内研究会を参観してください。各々が立問されたことを意識して学びを深めてください。					
省察 今日の研究会での御自身の「新たな教師の学びの姿」の達成度を、5段階の該当する数字を○で囲ってください。また、5、4と答えた場合は、「新たな教師の学びの姿」が達成できた場面を、3、2、1と答えた場合は、「新たな教師の学びの姿」を達成するために必要な手立てを具体的に記述してください。 「新たな教師の学びの姿」の実現					
自身の学び	5	4	3	2	1
再考 立問 第6回プロジェクト研究会での学びを、自校の校内研究会でどのように生かそうと思いますか。具体的に記入してください。 研修および研究会を振り返って					
実践 再考、立問されたことを基に、各校の校内研究の実践を活性化させていきましょう！					

図1 研究会での探究的な学びを可視化する「探究的な学びシート」

研究委員の「学びたいこと」(一部抜粋)

- ・ X小学校の校内研究の取組や先生方の学びを参観して、自校に取り入れることができる内容や視点について考えていきたいです。
- ・ 人それぞれ考え方は異なると思うので、自校以外の先生方の学びも参考にして、校内研究の取組に生かしたいと思います。
- ・ 教職員一人一人が主体的に研究を推進しようとする姿勢や職場の雰囲気づくりについて学びたいです。
- ・ 研究協議の方法やそのテーマの設定の仕方を学びたいです。
- ・ どのようにお互いの実践交流を進め、学びを取り入れることができるかについて学び、考えていきたいです。

研究授業の参観

今回のプロジェクト研究会で、研究委員の皆様に参加していただいたのは、本研究の研究委員であり、X小学校の校内研究主任である、6年2組担任のA教諭の授業でした。今回は第6学年国語科「やまなし」の授業を参観させていただきました。

「授業参観記録シート」

授業参観をするにあたり、X小学校の校内研究主題と校内研究の方向性、授業者であるA教諭の課題とこれまでの学びをまとめた「授業参観記録シート」(図2)を作成しました。このシートを使用することで、子どもの学びの姿に注目して授業を参観し、授業者のねらいやその実現に向けた手立ての有効性を検証できるようにしました。

研究委員の皆様には、まとめられた情報を基に、授業を通して見取りたいことを考え、参観の際に使用していただきました。

『子どもの学びの姿』見取りシート」X小 ver.

2024年度 校内研究主題 主体的に考え判断し学習へ向かう子どもの育成 ~どの子ども見通しをもち、学びを自覚する時間や自ら学習を調整する場を大切に授業づくり~			
目指す子どもの姿	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。		
単元名	作品の世界を想像しながら読み、お気に入りの表現について考えたことを伝え合おう 「やまなし」		
・学習活動 ○予想される子どもの学びの姿(参観の視点)	子どもの姿の実際	成果と課題	授業者の手立て
・学習計画表やこれまでの学びを振り返り、本時の見通しをもち。 ○自分が選んだ「推し表現」を全文シートで確認し、学習の見通しをもつことができる。			・全文シートや人物像シートを振り返りながら、「推しカード」に書くべきポイントをおさえる。 ・児童が全文シートに貼ったお気に入りのシールを活用し、児童が相手を選んで交流することができるようにする。

図3 X小学校の「授業参観シート」(実際のシートを基に研究員が作成)



令和6年度 第6回校内研究活性化プロジェクト研究会 at X小学校

授業参観記録シート 所属校() 氏名()

X小学校の校内研究主題

主体的に考え判断し学習へ向かう子どもの育成
~どの子ども見通しをもち、学びを自覚する時間や自ら学習を調整する場を大切に授業づくり~

「共通実践」の方向性や内容

- ①子どもの実態や興味・関心をふまえたゴールの設定を行うこと
やってみよう、できるよになりたいという子どもの思いを引き出せるように子どもの実態や興味・関心をふまえたゴールを設定することで、子どもが目的意識をもって学びに向かえるようにする。
- ②子どもが見通しをもち、自らの学びを自覚する時間の設定を充実させること
学習のはじめや終わりに子どもが自らの学びを自覚する時間を設定する。その際には、学習計画表や振り返りシートなどを活用する。子どもができたことやもう少しがんばりたいことを自覚することで、学習のめあてや進め方などの学習調整を自らがし、主体的に考えて判断して、学習に向かえるようにする。
- ③子どもが主体となる学習の場を工夫すること
子どもの思考に合わせて並行読書やワークシート、学習のめあて方を選択できるように工夫することで、子ども一人一人にとって粘り強く学習に取り組むことができるようにする。また、交流の場では、目的を明確にして相手を選ぶ環境づくりを行うことで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

研究授業
第6学年国語科 授業者 A先生

・子どもの学びの姿から授業を参観し、6校時に研究委員同士で協議を行います。
→協議の際に子どもの学びの姿とその要因を話せるように準備をしましょう。
・校内研究の取組に関して気付いたことや感じたことも記録しましょう。

授業者の課題	自らの学びを自覚する時間の設定 子どもたちが単元を通した学びの中で「○○の学習をしてきて、このようなことができるようになった。成長した。」など、自らの学びを実感する時間が十分に取れていない。
授業者のこれまでの学び	子どもがゴールに対して、自分の学びの機会を選択しながら向かっていくという時間を大切にしたい。 そのための教師の支援として、児童の学びとうする姿から必要に応じて思いをくみ取る。そして、児童同士をつないだり、全体との共有につなげて児童の学びを深めたりしていきたい。
参観の視点	A教諭の授業で見取りたいこと

図2 授業参観で使用した「授業参観記録シート」

A教諭は、『子どもの学びの姿』見取りシート」を自校の実情に合わせて改編し、「授業参観シート」として使用されました(図3)。このシートには、あらかじめ学習活動と授業者の手立て、そして授業者の予想する子どもの姿が記載されており、参観者が子どもの学びの姿と授業者の手立てのつながりに集中して見取ることができるようにされました。研究授業でX小学校の先生方は、「授業参観シート」を活用しながら、子どもの学びの姿を記録されていました。

校内研究会の参観

「X小カフェスタイル」を生み出したA教諭の「校内研究活性化に向けた探究的な学び」

導入の経緯(再考→立問)

A教諭は、1学期に取り組んだ校内研究を振り返り、指導案の検討会や授業参観後の研究協議会において、教員一人一人が自分の気付きや学びを発言する機会が少ないことに課題を感じていました。そこで、第5回研究会で、S市立S中学校の校内研究会を参観した際に学んだことや気付いたことを基に、課題を解決するためには、「教員一人一人が安心して考えを発言できる環境」をつくるのが大切だと考えました。

導入に向けて(立問→実践)

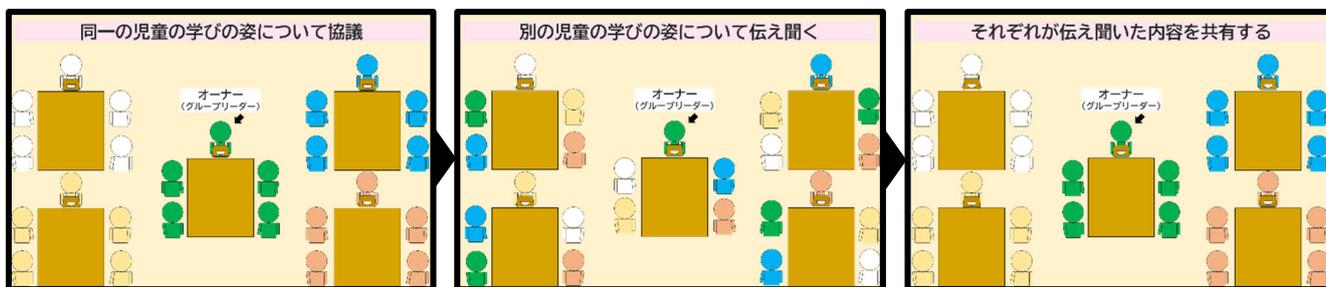
「教員一人一人が安心して考えを発言できる環境」を目指した研究協議会のもち方について、校内研究推進委員会で協議と検討を重ねた結果、「X小カフェスタイル」が誕生しました。

「X小カフェスタイル」とは

教員がリラックスして協議に臨むことができるように、カフェのような雰囲気の中で行うX小学校の研究協議会の形です。運営担当がエプロンを着用してカフェの店員を模したり、軽食やカフェミュージックを提供したりと、参加者がリラックスできるような工夫が随所にちりばめられています。また、各協議グループのリーダーを「(カフェ)オーナー」と呼称し、カフェの雰囲気を一層浸透できるようにしながら、教員一人一人が校内研究での気付きや学びを発言する機会を保障するための協議方法を工夫しました。さらに、「X小カフェスタイル」による研究協議会の流れと雰囲気が分かるように、研究推進委員会で説明動画を制作し、それを用いて事前に教員に周知を行いました。



《「X小カフェスタイル」のイメージ図》



「X小カフェスタイル」の実施と振り返り(実践→省察)

「X小カフェスタイル」による研究協議会は、運営担当の装いやBGM、テーブルごとに提供されている軽食などの効果が、とても和やかな雰囲気で協議が進んでいました。

また、ある教員(以下、教員Bという。)の学びの姿に密着し、その変容を見取りました。教員Bは、はじめの協議グループでは、他の教員の意見を聞き、考えを巡らせてはいるものの、自分が見取った児童の学びの姿を語る事が十分にできていない様子でした。次の協議グループでは、オーナーや他の教員から、別の児童の学びの姿について伝え聞き、再度もとの協議グループに戻った際は、伝え聞いたことを基に、自らの言葉で授業者の手立ての有効性について意見を述べる事ができていました。



「X小カフェスタイル」での協議の様子

X小学校校長 C先生による研究協議会の総括

この単元が始まって、「すごく子どもたちががんばっています」「今日も一生懸命考えて、いっぱいいろいろな意見を出していました」と、とても嬉しそうに話をするA先生の姿が印象的でした。目の前の子どもたちのことを一生懸命考えて授業づくりをし、その授業を何よりも先生自身が楽しんでいる姿がとてもよいと感じています。今日の授業で感心したところは、子どもに考えてほしいところは教師が多く語らず、話さなくてもよいことは話さず、子どもを信頼して任せてみるということなのです。本校の校内研のテーマは「主体的に考え判断し、学習に向かう子どもの育成」を目指した授業づくりです。そのために今日の授業だけでなく、他にもたくさん大事にしてきた日常があるのではないかなと感じています。



次の校内研究の取組に向けて(省察→再考)

A教諭は、研究協議会后、参加者を対象に「X小カフェスタイル」についてのアンケート調査を実施しました。集計の結果、およそ95%の参加者が「X小カフェスタイル」に対して肯定的であったことがうかがえました。その理由や感想には、「話しやすい雰囲気づくりがとてもよかったです」「聞いてきたことを自分の言葉で伝えることで、学びが自分のものとなり、深い学びができました」などがありました。

A教諭は、「X小カフェスタイル」による校内研究会を振り返り、「教員の学びに向かう姿勢の変化を感じています。この校内研究会以降、私が提案する取組を前向きに捉えてもらえるようになりました」といった成果を実感されていました。また、「教員一人一人の学びが授業改善に生かされ、児童に還元されていくことが楽しみです」と、校内研究が活性化することによって児童の学びが充実することを期待し、これまでの取組について再考しながら、新たな立問へと向かわれました。

Q1: 「X小カフェスタイル」での研究協議はいかがでしたか?
 よかった!
 どちらかと言えばよかった
 どちらとも言えない
 どちらかと言えばよくなかった
 よくなかった

Q2: Q1で選ばれた項目の理由と感想をお書きください。

「X小カフェスタイル」についてのアンケート

「X小カフェスタイル」についてのアンケート調査の結果

「X小カフェスタイル」での研究協議はどうだったか。(回答総数19人)				
よかった	どちらかと言えばよかった	どちらとも言えない	どちらかと言えばよくなかった	よくなかった
18人	0人	1人	0人	0人
評価	評価の理由および感想			
よかった	話しやすい雰囲気づくりがとてもよかったです。意見をまとめた紙を目につく場所に掲示していただけると、協議を振り返ることができてうれしいです。			
よかった	気軽に話しやすい雰囲気だったので、楽しく研究協議会を過ごすことができました。つい話し込んでしまい、「もっと他の人の事も聞きたかった…」となったので、終了時間を示すタイマーがあると更に嬉しいです。			
よかった	意見を聞き(インプット)→もち帰り(内在化)→伝える(アウトプット)の流れがあり、一人一人の学びが深まる研究協議だと思いました。			
よかった	気軽にたくさん考えていたことを話したり、聞いたりできてとてもよかったです。また、聞いてきたことを戻って自分の言葉で伝えることで、学んだことが自分のものになったと感じ、学びの深い時間でした。			

校内研究会の参観を終えて(研究委員の振り返りより)

- ・雰囲気づくりや準備、助けてくれる教員の大切さを学んだので生かしていきたいです。
- ・いつも同じ人が発表をすることがあるので、今回のようなX小カフェスタイルでの、全員が自分の思いを伝える、話すという研究会の仕方もやってみようかなと思いました。
- ・研究会が、ワールドカフェとジグソー法を組み合わせた、初めて見た協議方法で運営されていました。
- ・最初の班で話し合った内容について、次の班で情報を提供したり、収集したりして、最後に元の班に戻って、どんな情報を得てきたかを班のメンバーと共有して学びを深められていました。
- ・カフェスタイルということで、軽食の準備がより話し合いを和やかなものにしていました。
- ・いろいろな考え方や手立てを共有するだけでなく、誰もが話しやすい雰囲気ができるので有効な方法だと思いました。今後は本校でも取り入れてみたいです。





今回は、校内研究活性化プロジェクト研究の実践校であるX小学校の校内研究会の様子をお届けしました。今回の授業では、めあてを達成するために子どもたちが学習を調整する場面において、支援をすることはあれど、多くを語らず、子どもたちを信頼し、学習活動の多くを子どもたちに任せているA教諭の姿勢が印象的でした。研究協議会の冒頭、X小学校のC校長が御挨拶の中で、「本日の授業を振り返ってみると、本校の校内研究の主題である『主体的に考え判断し学習へ向かう子どもの育成』を目指した授業の実現に向けて、今回の授業だけでなく、A教諭がそれまでに大切にしてきた日常がたくさんあるのだろうなと感じた」とおっしゃいました。このお話を聞いて、令和5年度発行された『教育しが』(No. 92)の「今日は何の服を着ようかな」というタイトルの記事をふと思い出しました。そこには、「子ども自身が、考えて選ぶことで『見て』『探して』『見つけて』『触って』『迷って』『考えて』『また迷って』。そして、『決めて』をたくさん経験します。小さな決断を繰り返すうちに、自信がつき、自分で考えて行動したり、決めたりできる力を育てていくきっかけになります。」と書かれています。今回のA教諭の授業からは、本時に至るまでに、選択肢を与えてもらったり、手本を見せてもらったりしながら、だんだんと自分でできるようになってきた子どもたちの姿が想像できました。そして、「小さな選択」に向き合い、決断する子どもたちが「決めてよかった」と思えるように共感を示したり、称賛を送ったりしているX小学校の先生方の教育実践が積み上がり、今日のX小学校の子どもたちの学びの姿があるのだと感じました。

教育を「点」で見るのではなく「線」で捉えることの大切さとともに、本研究会における学びもしっかりと省察を行い、次につなげていこうと決意しました。また、御参加いただいた先生方におかれましても、本研究会をきっかけに更に実践が発展されますと幸いです。



研究員
しまうち ゆうしょう
島内 佑祥



研究員
たけうち たつや
竹内 達哉